鉄鋼概況

中国鋼材輸出急増 鉄鋼貿易摩擦過熱の懸念

鉄鋼エコノミスト　左近司 忠政

11 月の全国粗鋼生産量は 3 カ月連続して前年水準を下回ったが，12 月に 11 月並みの生産が続けば 2014 年暦年は 1 億 1,115 万トンとなり，リーマン・ショック後の最高となる。11 月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 2.9%減で 3 カ月ぶりに減少した。原料価格の下落，中国の輸出大国化，ルーブル下落などでの価格低迷などが数量減の要因とされている。鉄鋼輸入は前年同月比 14.9%減の 64 万 3,400 トンで，13 カ月ぶりに前年を下回った。鉄鋼連盟は 2015 年度の全国粗鋼生産量の見通しを発表し，2014 年度並みの 1 億 1,000 万トンを上回る水準を 3 年連続で維持すると見通している。中国の 11 月鋼材輸出は 972 万トンで月間の過去最高を更新し，1～11 月期累計では前年同期比 46.8%増，通年で過去最高の 7,165 万トン（2007 年）を大きく上回り 9,000 万トンを超える見通しとなっている。中国に加えて，最近ロシア高炉大手も半製品やホットコイルを海外市場に安値で輸出攻勢をかけ始め，諸外国との間で鉄鋼貿易摩擦が過熱することが懸念されている。11 月の世界（65 カ国）の粗鋼生産は，前年同月比 0.1%増，前月比 4.3%減の 1 億 3,052 万 5,000 トンで，中国は前月比 6.2%減で 3 カ月連続減少，中国以外は同 2.4%減と 3 カ月ぶりに減った。

◆11 月粗鋼生産，高水準維持

鉄鋼連盟が発表した 10 月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋段階）は，前月末比 5 万 7,000 トン，1.0%減の 587 万トンで 2 カ月連続の減少となった。在庫率は前月末比 6.4 ポイント低下して 137.6%となり，依然高い水準にある。一方 10 月末の普通鋼鋼材の流通在庫は，鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると，前月末比 7 万 7,000 トン，2.7%減の 281 万 1,000 トンと 3 カ月ぶりの減となった。10 月の販売量は前月比 6 万 8,000 トン，2.5%増の 277 万 8,000 トンと 2 カ月連続して増加し，その結果 10 月末の在庫率は 101.2%となり，8 月末 116.4%，9 月末 106.5%に比して大きく減少傾向をたどっている。

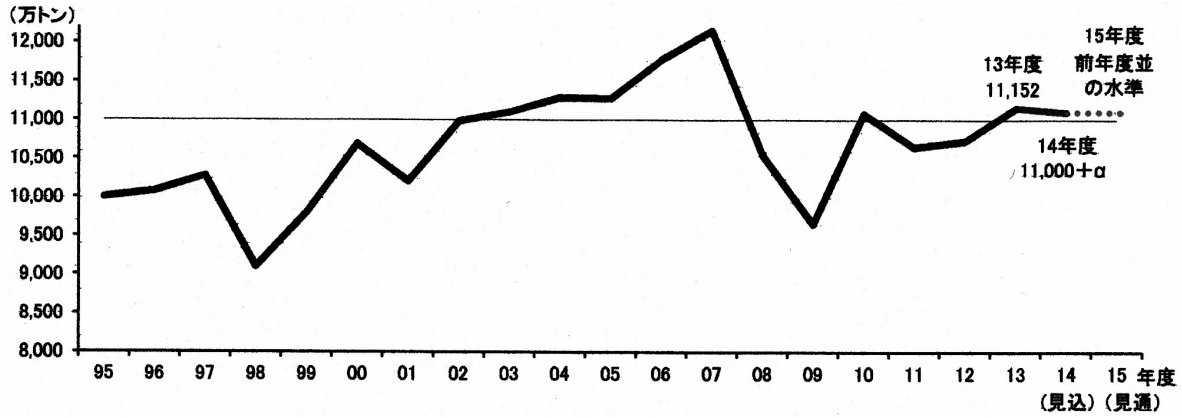
主要製品の在庫状況についてみると，10 月末の薄板 3 品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は，前月末比 6 万 5,000 トン，1.5%減の 424 万 2,000 トンと 2 カ月連続で減少し，3 カ月ぶりに 430 万トンを割った。しかし，適正水準は 400～410 万トンと言われており，いまだ高水準である。10 月末の在庫率（分母は生産量）は 2.45 カ月で前月末比 0.06 ポイント上昇した。主要建材製品である H 形鋼の 11 月末の流通在庫は，新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると，前月末比 0.9%減の 20 万 6,100 トンの微減となった。11 月は流通各社が発注を抑制する姿勢を継続しているが，稼働日数が少なく出庫量は前月比 9.2%減となり，11 月末の在庫率は前月比 0.19 ポイント上昇して 2.24 カ月となった。

鉄鋼連盟が発表した 11 月の全国粗鋼生産量は，前年同月比 1.1%減の 917 万 5,000 トンで 3 カ月連続して消費増税の駆け込み需要のあった前年水準比減となった。日産量は前月比 1.3%増の 30 万 5,800 トンで年率 1 億 1,100 万トンの高水準を維持している。炉別生産

では，転炉鋼が前年同月比 2.6%減の 691 万 4,000 トンで 3 カ月連続減，電炉鋼が同 3.9%増の 226 万 1,000 トンで 2 カ月連続増となった。鋼種別では，普通鋼が 2.4%減の 699 万 7,000 トンで 3 カ月連続減，特殊鋼が 3.4%増の 217 万 8,000 トンで 2 カ月ぶりの増となった。1～11 月の生産累計は 1 億 167 万トンで，12 月が 11 月並みの生産が続けば 2014 年暦年は 1 億 1,115 万トンとなり，2013 年実績をわずかに上回り，リーマン・ショック後の最高となる。

財務省が発表した 11 月の鉄鋼貿易統計によると，輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 2.9%減の 326 万 4,000 トンとなり，3 カ月ぶりに減少した。海外鉄鋼市況は，原料価格の下落，中国の輸出大国化，ルーブル下落などから価格が低迷しており，スポット商談で影響が生じたことが数量減の要因とされている。鉄鋼輸入は前年同月比 14.9%減の 64 万 3,400 トンで，2013 年 10 月以来 13 カ月ぶりに前年を下回った。11 月の主な向け先別内訳をみると，アジア地域が前年同月比 3.3%減の 254 万 2,000 トンで，このうち中国は 20.5%減の 40 万 8,000 トンと日系自動車の販売苦戦などから 3 カ月連続して減少している。また，NIE's は 4.4%減の 104 万 1,000 トン，ASEAN が 1.9%減の 93 万 4,000 トンとなっている。その他では中東が 7.5%増の 16 万 4,000 トン，米国は 23.0%増の 20 万 3,000 トン，EU は 10.4%増の 1 万 9,000 トン，ロシアが 5.5 倍の 2 万 3,000 トンとなった。主な輸入相手地域別内訳は，アジアが前年同月比 14.8%減の 53 万 3,200 トンとなり，このうち中国は 29.3%増の 12 万 8,500 トン，NIE's は 25.0%減の 37 万 1,600 トン，ASEAN が 35.5%増の 1 万 5,200 トン，その他ではロシアが 59.8%増の 1 万 5,700 トンとなっている。

図－1　国内粗鋼生産の推移



（出所：日本鉄鋼連盟）

◆2015 年粗鋼生産，前年度並み――鉄連見通し

鉄鋼連盟は，2015 年度の全国粗鋼生産量について，2014 年度並みの 1 億 1,000 万トンを上回る水準を 3 年連続で維持するとの見通しを発表した。当見通しによると，2014 年度の日本経済は大型の公共事業予算が景気を下支えたものの，4 月の消費増税に伴う個人消費，住宅投資の反動減が想定より長引き，設備投資も上期は伸び悩んだ。下期以降景気は反動減の影響は徐々に薄まるとしている。2014 年度の鉄鋼内需は，住宅，自動車関連が前年割れだったが，上期に公共土木向けが増加し，造船や産業機械向けも堅調に推移した。外需はアジアの需給緩和によって上期に落ち込んだが，下期にかけて回復軌道にあり，全国粗鋼生産は 2 年連続で 1 億 1,000 万トンを上回る見込みである。

2015 年度の日本経済は，公共投資が鈍化するものの，消費税再引き上げが 2017 年 4 月に延期されたことから個人消費・住宅投資が回復に向かうほか，設備投資や輸出の持ち直しも下支えとなり，景気は回復軌道をたどると見ている。鉄鋼内需は，住宅投資が底入れに向かい，非住宅建築や機械など設備投資関連も順調に推移するため全体としては前年度水準並みになると想定している。外需は，世界鉄鋼協会によると小幅ながらプラス成長が予測されており，中国・韓国などの生産能力増強による需給緩和が続くため，高水準の輸入が続くと見込まれている。その結果，前年度並みの 1 億 1,000 万トンを上回る水準を維持する見通しとなっている。

◆中国の鋼材輸出急増

最近，中国の鋼材輸出の増加が著しい。中国税関総署が発表した貿易統計によると 11 月の鋼材輸出は972万トンで前月の855万トンを大きく超えて月間の過去最高を更新した。１～11 月期累計では前年同期比 46.8%増の 8,361 万トンとなり，通年で過去最高の 7,165 万トン（2007 年）を大きく上回り 9,000 万トンを超える見通しとなっている。国内需要の減速が続き，販売競争が激化しているため，鉄鋼メーカーが国内より割高な海外市場を積極的に開拓している。例えば，河北鋼鉄集団はスイスの世界的鉄鋼貿易商社のデュフェルコの子会社を買収して輸出力を強化し,グループの唐山鋼鉄は同子会社を通じて 2014 年には 400 万トンを輸出する計画としている。包頭鋼鉄集団も輸出に舵を切り，2014 年には前年比 20%増の 180 万トンに増やす見通しとされている。

また，9,000 万トンの鋼材輸出のうち，ボロンを添加した合金鋼が通関での分類で半分ほどを占めているとされる。合金鋼は 17%賦課される増値税が還付されるため，課税逃れのため微量のボロンを加えたり，他の鋼種を偽って合金鋼として通関コードで申請するケースも指摘される。中央政府が年内にボロン添加合金鋼の輸出時増値税還付を撤廃する見通しが伝えられ 11 月には駆け込み輸出が生じた可能性があるといわれている。

中国に加えて，ロシアが政情不安や原油価格の低落から通貨ルーブルが急落し，最近ロシア高炉大手が半製品やホットコイルを海外市場に安値で輸出攻勢をかけ始めている。このような情勢により諸外国との間で鉄鋼貿易摩擦が過熱することが懸念されている。

◆11 月世界粗鋼生産，年率 16 億トン水準維持

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した 11 月の世界（65 カ国）の粗鋼生産実績によると，前年同月比では 0.1%増であったが，前月比では 4.3%減の 1 億 3,052 万 5,000 トンと 2 カ月ぶりに前月比減となった。中国は 6.2%減と 3 カ月連続で減り，中国以外は 2.4%減と 3 カ月ぶりに減った。11 月の製鋼操業率は 73.5%と前月比 1.2 ポイント低く，前年同月比では 2.5 ポイント低下した。65 カ国の 11 月の日産量は前月比 1.1%と 2 カ月連続で減少し，中国は 3.1%減と 2 カ月連続で減少した一方，中国以外は 0.9%増と 2 カ月ぶりに増加した。新興国の 11 月の日産量は，韓国が前月比 0.2%減の 3 カ月ぶりに減少し，インドは 4.2%増と 2 カ月ぶりに増加し，ブラジルは 6.1%減と 5 カ月ぶりに減少した。先進国では EU28 が横這い微減と 3 カ月ぶりに減少し，北米は 0.5%増と 3 カ月ぶりに増え，日本は 1.3%増と 2 カ月ぶりに増加した。1～11 月の 65 カ国生産は 14 億 9,775 万トンと前年同期比 1.8%増加した，年率では 65 カ国で初の 16 億トンペースを維持した。 ❑